

こども計画策定に係る未就学児童保護者、小学生保護者 アンケート調査結果【概要】

1 調査の目的

計画の策定にあたって、子育て中の家庭を取り巻く環境、生活の実態を把握するとともに、子育て当事者のニーズ等を把握します。

2 調査の設計

○調査地域	菊川市全域
○調査対象	市内に在住する未就学児の保護者、小学生の保護者
○抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出法
○調査方法	郵送によるアンケート調査票の配布、 郵送及びオンラインによる回答の回収
○調査期間	令和6年5月2日(木)～5月15日(水)

3 配布・回収状況

本アンケートの配布数と有効回収数は下記のとおりです。

配布数		有効回収数	有効回収率
未就学児	1,000	372	37.2%
小学生	1,000	343	34.3%

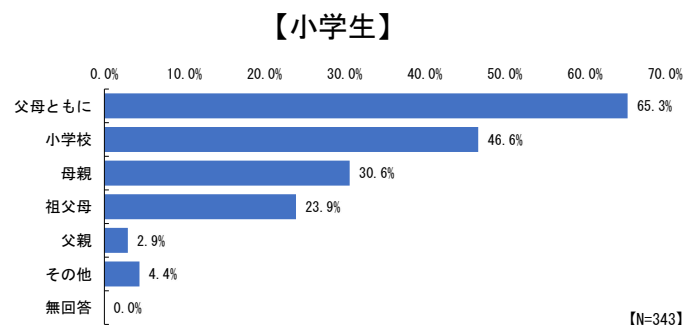
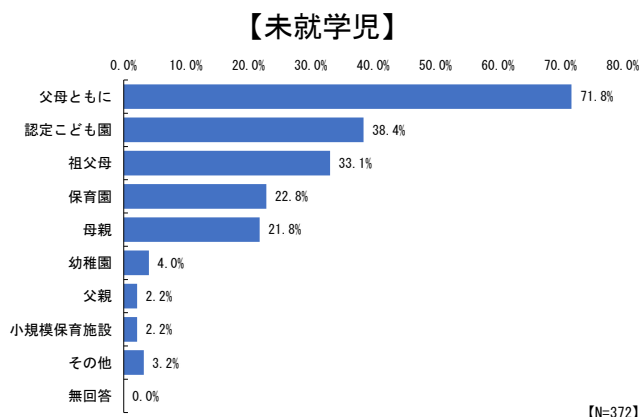
※以下、次のように記載

未就学児 未就学児保護者

小学生 小学生保護者

(1) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）（問 10）

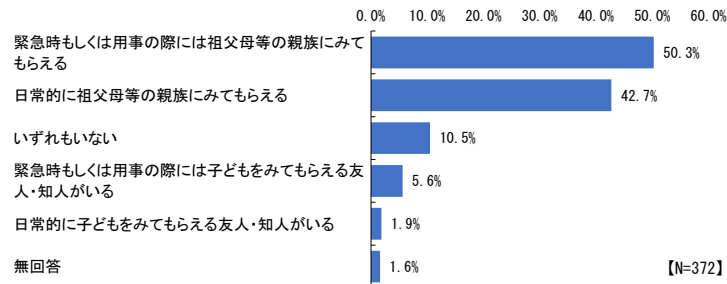
- 「父母ともに」が最も多く、未就学児で7割、小学生で6割となっている。
- 次いで「認定こども園」や「小学校」といったこどもが通っている施設が続く。
- 「母親」は未就学児では2割、小学生では3割となっている。



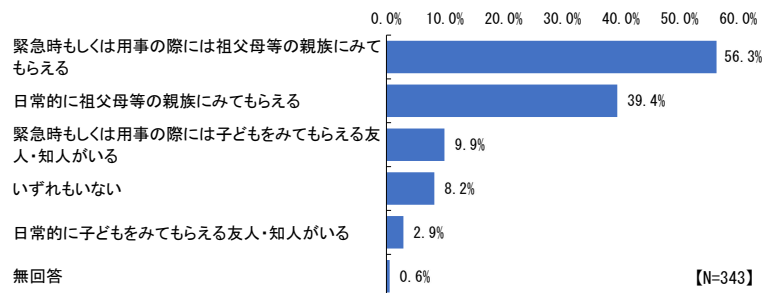
(2) こどもをみてもらえる親族・知人の有無（問 12）

- 緊急時や用事がある時に親族にみてもらえるのは、未就学児、小学生ともに5割。
- 日常的に親族にみてもらえるのは、未就学、小学生ともに4割程度。
- 「いずれもない」は、未就学で 10.5%、小学生で 8.2%。

【未就学児】



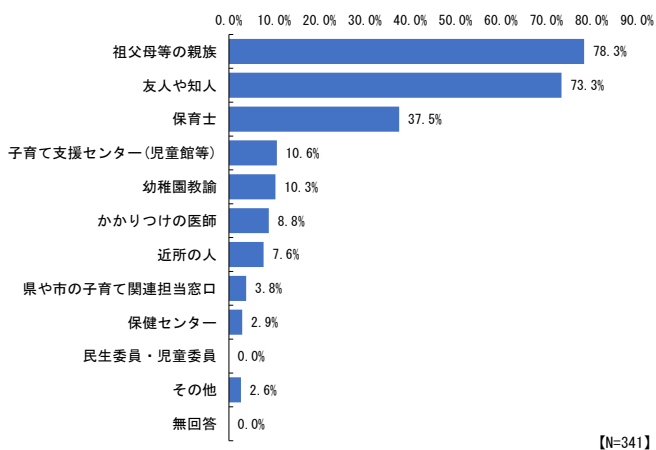
【小学生】



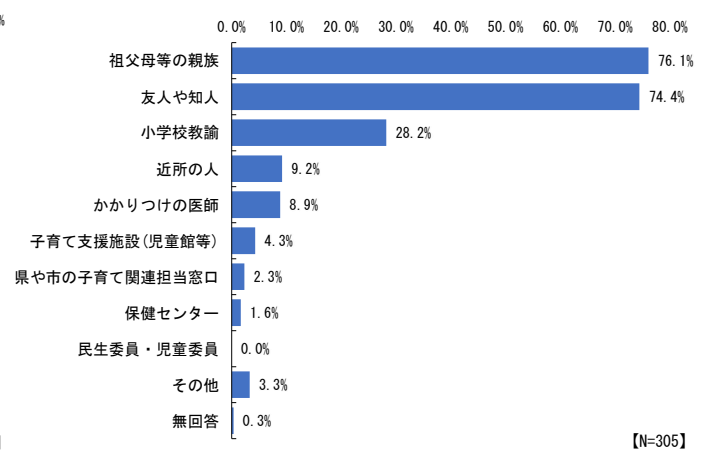
(3) 子育てについて気軽に相談できるところ（問 13〔1〕 相談できる人がいると回答した人のみ）

- 「祖父母等の親族」が最も多く、次いで「友人や知人」が続く。
- 県や市の相談窓口を利用している割合は、未就学児で 3.8%、小学生で 2.3%と少ない。

【未就学児】

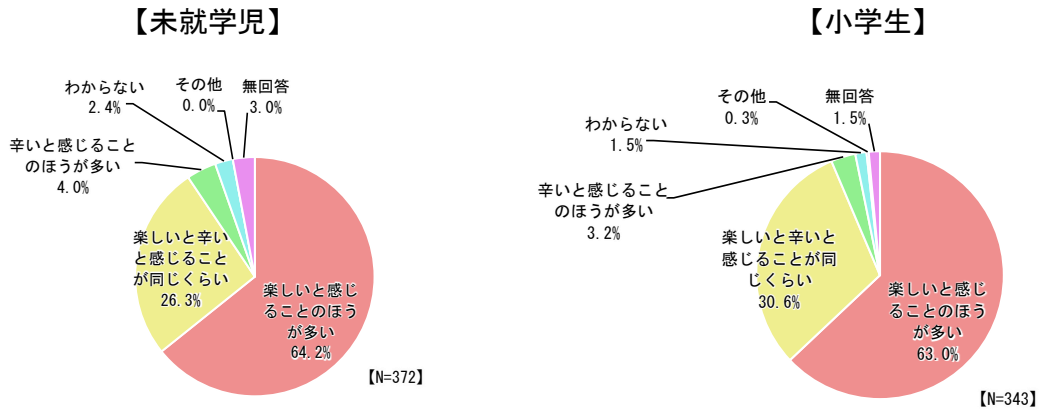


【小学生】



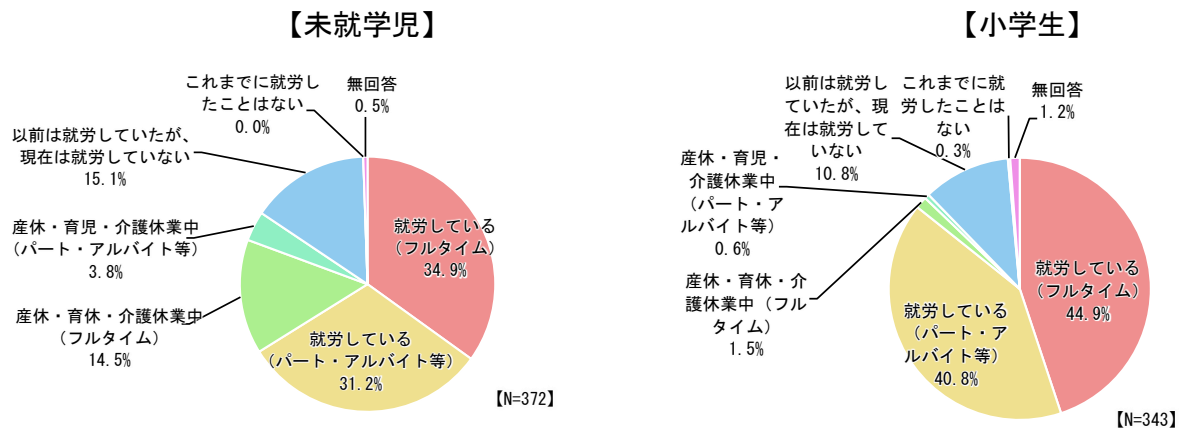
(4) 子育てを楽しんでいるか（問13〔2〕）

- 「楽しいと感じることの方が多い」割合が多い。未就学児、小学生ともに6割を超える。
- 「辛いと感じることの方が多い」割合は、未就学児で4.0%、小学生で3.2%。



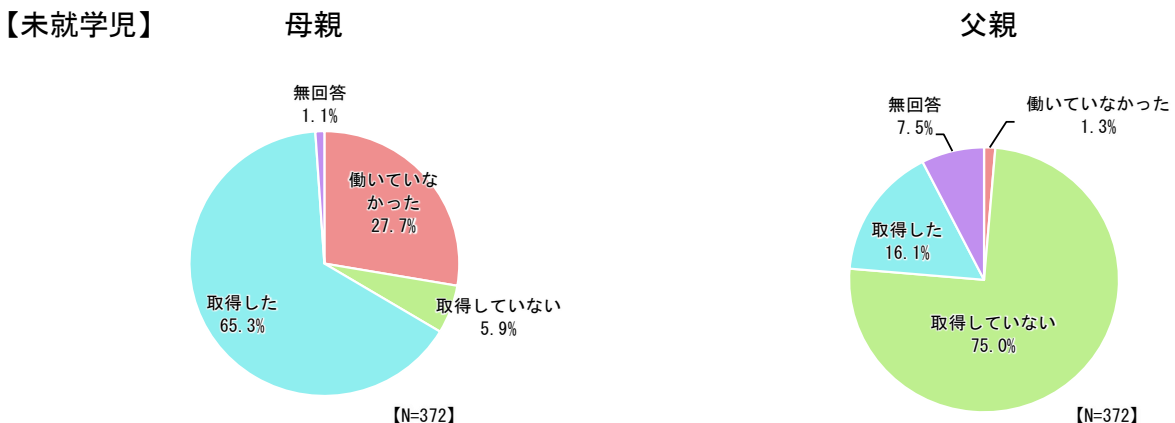
(5) 保護者の就労状況【母親】（問15）

- 現在就労している割合は、未就学児で6割、小学生で8割を超える。
- 休業中の割合は、未就学児で2割弱、小学生で2.1%。
- 就労していない割合は、未就学児で約1.5割、小学生で約1割。



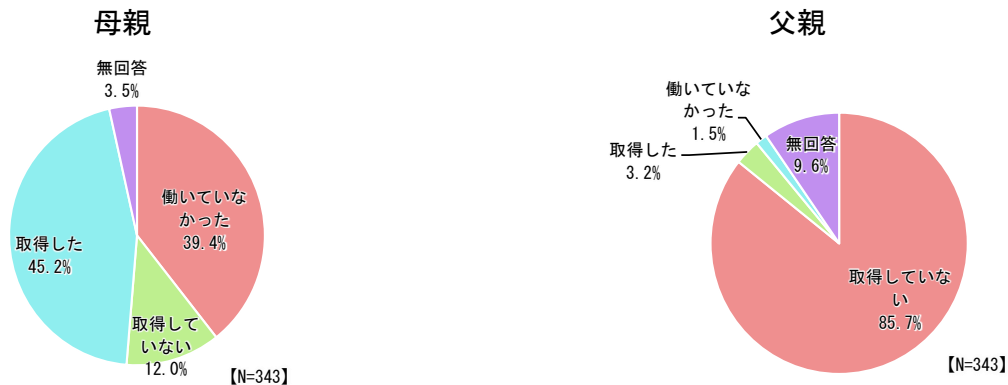
(6) 職場の子育て両立支援（育児休暇の取得状況）（未就学児 問27 小学生 問22）

- 未就学児の母親は、6割を超える割合が育児休暇を取得している。父親は、7割以上が育児休暇を取得していない。父親が育児休暇を取得した割合は、16.1%。
- 未就学児の母親は、働いていなかった割合も多く、3割弱。



- 小学生の母親は、4割を超える割合が育児休暇を取得している。父親は、8割以上が育児休暇を取得していない。父親が育児休暇を取得した割合は、3.2%。
- 未就学児の母親は、働いていなかった割合も多く、4割弱。

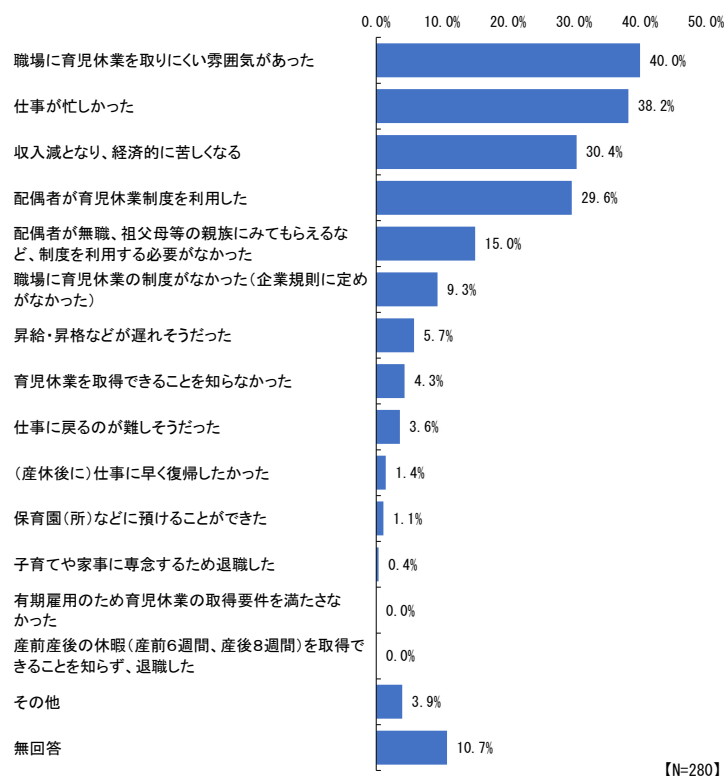
【小学生】



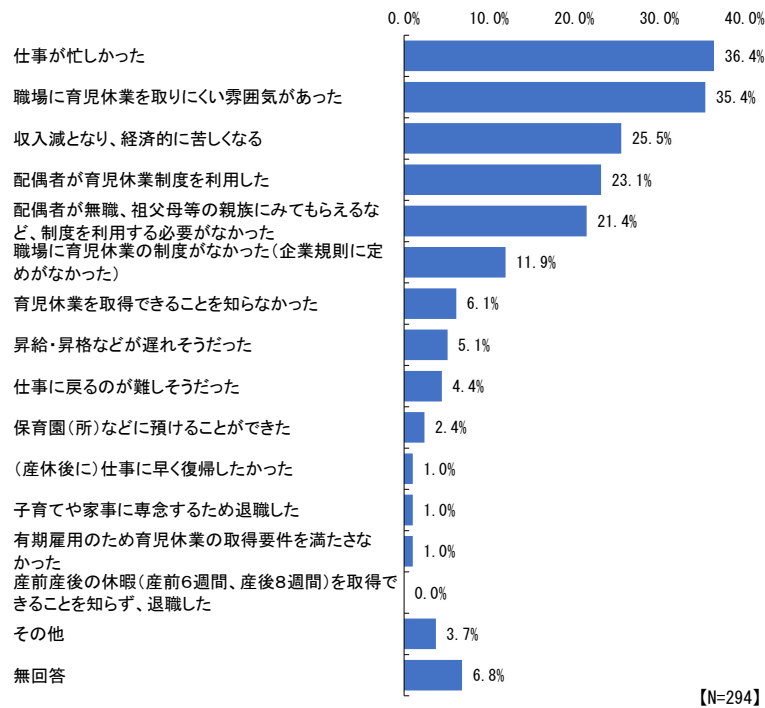
(7) 育児休業を取得しなかった理由【父親】(未就学児 問27〔1〕 小学生 問22〔1〕)

- 未就学児の父親が、育児休業を取得しなかった理由は、「取りにくい雰囲気があった」が最も多く、次いで「仕事が忙しかった」が続いている。
- 小学生の父親は、「仕事が忙しかった」が最も多く、次いで「取りにくい雰囲気があった」が続いている。
- 経済的な事情から、育児休業を取らなかったのは、未就学児で30.4%、小学生で25.5%となっている。

【未就学児】



【小学生】

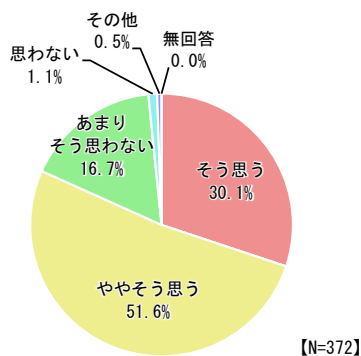


(8) 子育て環境について(未就学児 問28〔1～4〕 小学生 問23〔1～4〕)

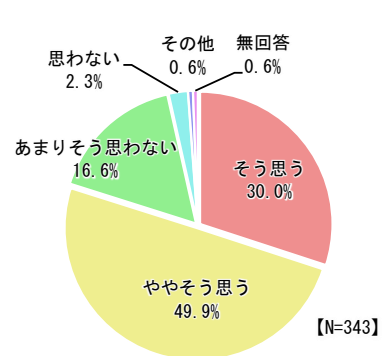
○子育て環境全般についての未就学児、小学生の保護者の意識は、以下のような状況。

こどもを生み育てるのに安心な環境と思う

【未就学児】

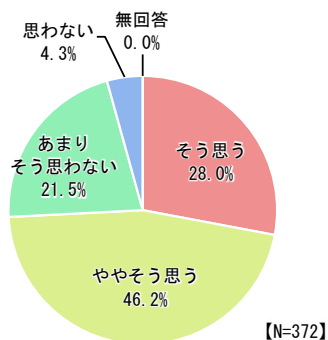


【小学生】

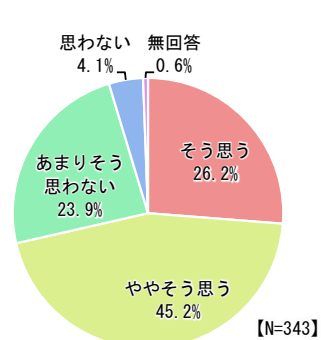


こどもが安心して遊べる場所がある

【未就学児】

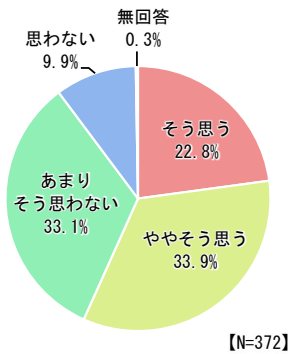


【小学生】

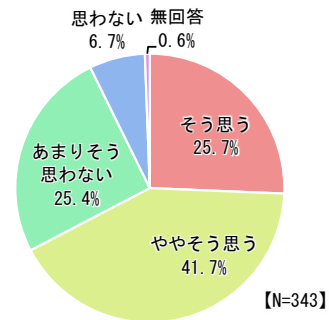


安心して市内の医療機関でこどもを受診させられる

【未就学児】

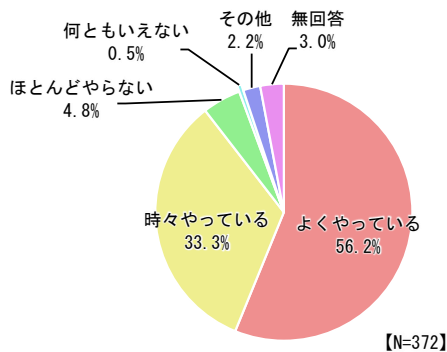


【小学生】

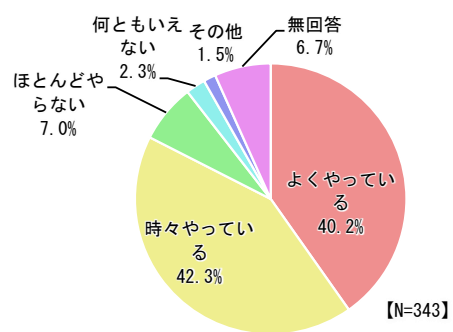


父親の育児の取組状況（ひとり親家庭を除く）

【未就学児】



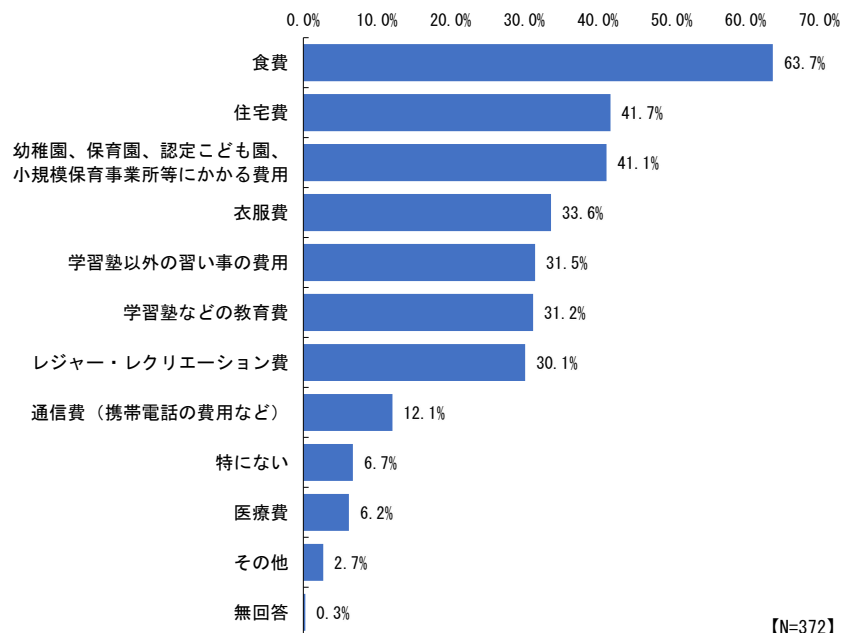
【小学生】



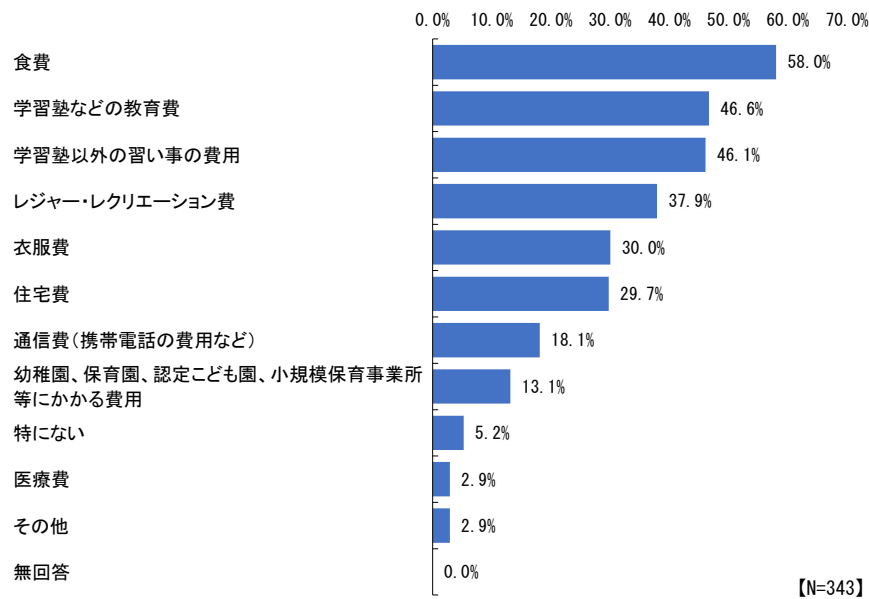
（9）こどもの教育にかかる経済的負担について（未就学児 問29 小学生 問24）

- 未就学児、小学生ともに「食費」が最も多い。次いで、未就学児は「住宅費」、小学生は「学習塾などの教育費」となっている。
- 未就学児では、そのほかに幼稚園保育園等にかかる費用が負担となっているが、小学生では、習いごとやレジャーなど、こどもの自主学習や体験にかかる費用が負担となっていることが伺える。

【未就学児】



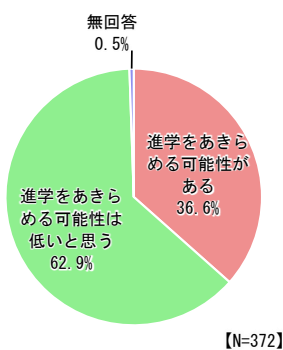
【小学生】



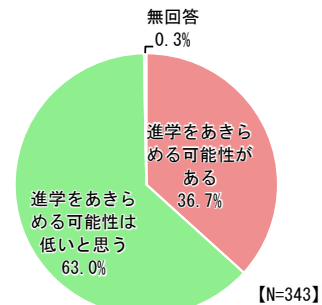
(10) 経済的な理由により、こどもが進学を諦める可能性（未就学児 問31 小学生 問26）

○未就学児、小学生ともに「進学をあきらめる可能性がある」割合が3.5割。

【未就学児】



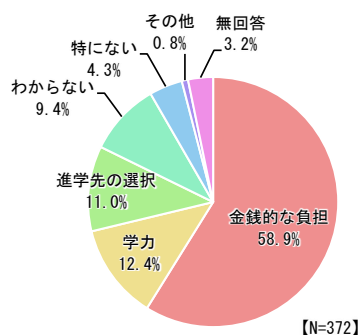
【小学生】



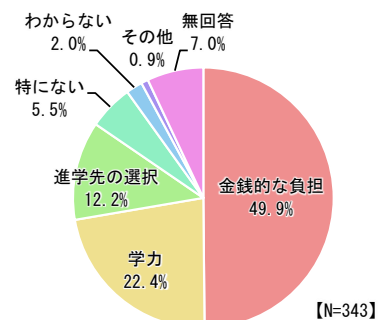
(11) 将来希望する学校まで進学させる際、もっとも心配なこと（未就学児 問32 小学生 問27）

○未就学児、小学生ともに「金銭的な負担」の割合が最も多く、未就学児では約6割。小学生では、約5割となっている。

【未就学児】

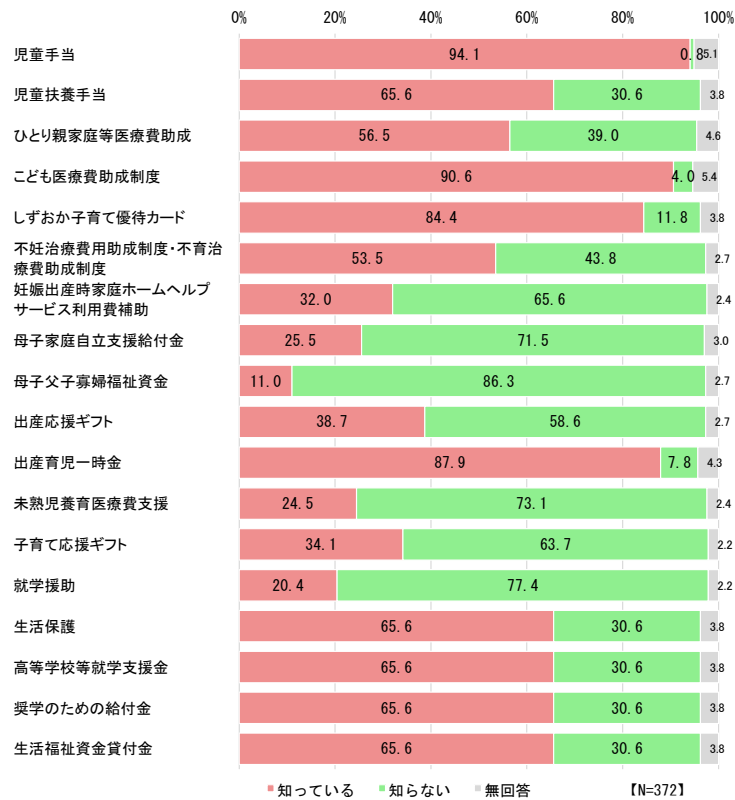


【小学生】

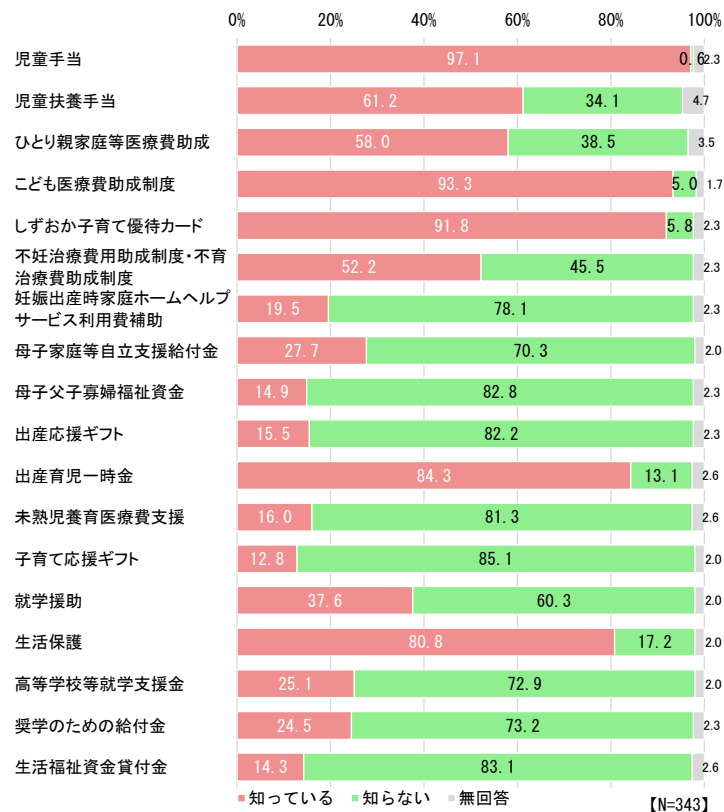


(12) 公的制度についての認知度（未就学児 問 40 小学生 問 35）

- 未就学児、小学生ともに「児童手当」「こども医療費助成制度」「出産育児一時金」「しずおか子育て優待カード」などの認知度が高い。
- 未就学児では、「母子父子寡婦福祉資金」「就学援助」などの認知度が低く、小学生では、「子育て応援ギフト」「生活福祉資金貸付金」などの認知度が低い。



【小学生】

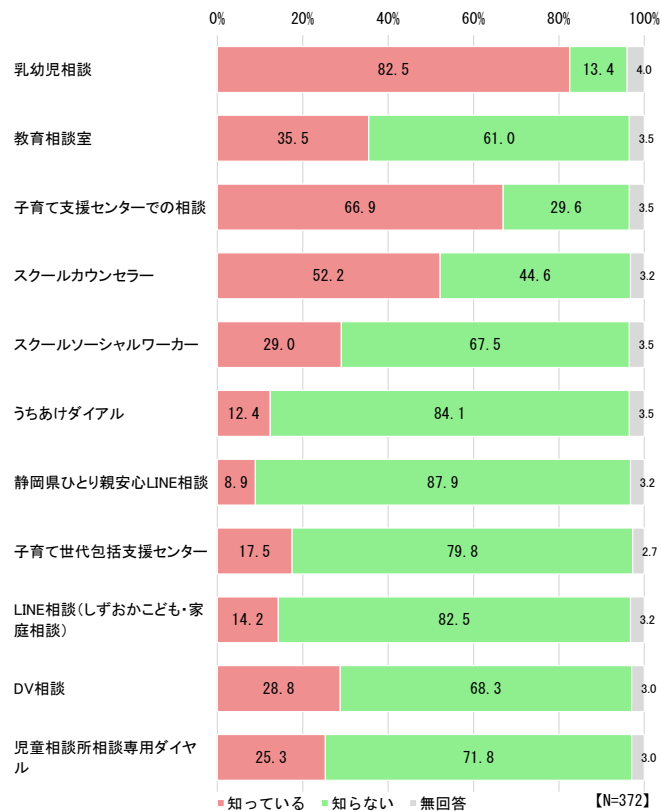


(13) 相談支援制度についての認知度（未就学児 問 41 小学生 問 36）

○未就学児では、「乳幼児相談」「子育て支援センターでの相談」などの認知度が高く、小学生では、「スクールカウンセラー」「乳幼児相談」の認知度が高い。

○一方で、未就学児、小学生ともに LINE を活用した相談サービスの認知度は低い。

【未就学児】



【小学生】

